

ブラジル向け洋上原油処理設備を連続受注

平成 24 年 12 月 20 日

東洋エンジニアリング株式会社

東洋エンジニアリング株式会社(TOYO、取締役社長 石橋 克基)と三井海洋開発株式会社(MODEC、取締役社長 宮崎 俊郎)によるシンガポール合弁会社の MODEC and TOYO Offshore Production Systems Pte. Ltd. (MTOPS)は、このたび MODEC より、浮体式海洋石油生産・貯蔵・積出設備(FPSO)に搭載する洋上原油処理設備の発注内示書を受領致しました。

FPSO Cidade de ITAGUAÍ MV26 と命名される本 FPSO は、ブラジル国営石油会社(ペトロbras)を含む4社コンソーシアムが保有する、ブラジル・リオデジャネイロ沖合 300km のイラセマ・ノース鉱区(水深約 2,240m)の海底下 5,000m プレソルト層(岩塩層下)にある海洋油田の開発に投入されます。なお、本 FPSO は 2015 年第 4 四半期に現地に係留される予定です。

MODEC は、ペトロbras向けに本案件で 9 隻目となる FPSO の受注実績を持つ世界トップクラスのコントラクターです。TOYO の同社関連 FPSO の受注は、本年 3 月の FPSO Cidade de Mangaratiba MV24 に続いて 7 件目になります。また TOYO のブラジルでのプロジェクト実績は 30 件目となり、現在は MV24 プロジェクトの他、昨年 12 月に受注したユーティリティー設備建設工事、本年 6 月に設立した合弁会社(TS パーティシパソエス社)によるガス処理プラント建設工事を遂行中です。

TOYO は中期経営計画「NEXT TOYO 2015」の一環として資源開発分野の強化に取り組んでおり、引き続きブラジルでの事業領域の拡大も図ってまいります。

受注概要

- 客 先: 三井海洋開発株式会社
- 受注者: MODEC and TOYO Offshore Production Systems Pte. Ltd.(MTOPS)(シンガポール法人)
- 係留地: ブラジル BM-S-11 ブロック、イラセマ・ノース鉱区(リオデジャネイロ沖合約 300km)
ペトロbras社を含む 4 社によるコンソーシアムが鉱区権を保有
(ペトロbras社(65%)、BG グループ(25%)、ガルフエネルギーE&P ブラジル社(7%)、
中国石油化工集团公司(3%))
- 対象設備: 浮体式海洋石油生産・貯蔵・積出設備(Floating Production Storage and Offloading ; FPSO)
トップサイド
設備概要: 石油生産設備(日量 15 万バレル)とガス生産設備(日量 280 百万立方フィート)の
洋上原油処理設備
- 役務内容: 洋上原油処理設備の設計、機器資材の調達およびモジュール製作、据付までの一括請負
- 原油生産開始時期: 2015 年第 4 四半期(2015 年 10~12 月)の予定

<お問い合わせ先> 広報・IR 室 [担当:佐藤、深沢] TEL:047-454-1113